



ムーディーズ、住友重機械に A3 の格付けを付与-初めての格付け

2007 年（平成 19 年）1 月 17 日、東京、ムーディーズ・インベスターズ・サービスは、住友重機械工業株式会社（住友重機械）に A3 の発行体格付けを付与した。格付けの見通しは安定的。ムーディーズが、同社に格付けを付与するのは、今回が初めてである。

この格付けは、強固な収益とキャッシュフローの生成に寄与する住友重機械の各種産業機械製品での主導的な市場地位、コスト削減努力の成功を背景とする強固なコスト基盤、および過去数年の経営陣の債務削減努力によって達成された十分な財務の柔軟性を認識したものである。本格付けはまた、同社の収益は依然循環性を示すが、同社はその健全な財務構造と、強みを持つ製品分野を一層強化する現在の事業戦略によって循環的な市場変動に対処する能力を、今後も高めていくことができるであろうとのムーディーズの見方を織り込んでいる。

住友重機械の実績は、2002 年度（2003 年 3 月 31 日に終了する年度）に開始した前中期経営計画が順調に進捗したことにより、過去数年間、着実に改善している。同中期経営計画の下で同社は、収益の向上と安定を目的とした事業再構築のための様々な施策を実行した。

これらの施策の一環として、住友重機械は減・変速機、射出成形機、医療向け PET（ポジトロン断層撮影法）用サイクロトロンなど、強みを持つ分野への重点投資を行った。それによって、顧客ニーズの変化に対応して新商品を導入する同社の能力は一層高まっている。また、コスト削減とそれによるコスト競争力の強化も達成された。さらに、造船や建設機械など収益性の低い事業の再構築も大きく進展した。

これらの戦略によって住友重機械が優位性を持つ分野の市場地位が一層強化された結果、住友重機械はそれらの製品の需要の拡大を捉えて、売上と利益を向上させることができた。同社はまた、この数年、効率性の低い分野を再構築することによってコスト基盤を大幅に低下させており、そのことも全体の収益の向上につながっている。同社の 2005 年度の営業利益率は 8.6% で、2002 年度の 3.6% から大幅に改善した。

収益の改善と債務削減努力に伴って、住友重機械の財務構造は顕著に強化された。総有利子負債対キャピタリゼーション比率は、2002 年度の 67.8% から、2005 年度には 37.8% に改善しており、市場の低迷に対処する同社の財務の柔軟性は過去と比較して高まっている。強固なキャッシュフロー生成能力および債務削減努力の継続を背景に、同社は財務の柔軟性を、今後さらに高めていくことができるであろうとムーディーズでは考えている。

一方、住友重機械は、海外市場の競争激化、資材費の高騰など、引き続きいくつかの課題に直面するものと予想される。

住友重機械は現在、2005年度にスタートした新中期経営計画「躍進 07」に取り組んでいる。住友重機械は同計画の下で、売上の拡大を目指して、高付加価値製品の市場投入、事業の垂直統合、キーコンポーネント事業の強化・拡充などの施策を採る。ムーディーズは引き続き、同社が現在の経営戦略の下でいかに上記の課題に対処し、収益を強化し、安定化させていくかを注視していく。

住友重機械工業株式会社（本社：東京）は、日本の大手重機械メーカーの一角。2006年3月期の連結売上高は約5,513億円。

以上